

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：教育学科

資格：准教授

氏名：和田 垣 究

研究分野	研究内容のキーワード
音楽学（民族音楽学）、音楽教育、声楽	東アジア（日本・韓国、他）、教科教育、西洋の歌曲、オペラ・オペレッタ
学位	最終学歴
博士（学校教育学）、教育学修士	兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科 教科教育実践学専攻 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 日本語教育能力資格取得（外国人対象の日本語教育、日本国際教育支援協会等主催）	1991年03月	
2. 中学校教諭一級普通免許状 音楽	1979年03月31日	
3. 高等学校教諭二級普通免許状 音楽	1979年03月31日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項					
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要	
1 著書					
1. 「PracticeⅡ 童謡曲集」『大学・短大教職課程のためのピアノ曲集・童謡曲集 マイ・レッスン』	共	2013年09月15日	全音楽譜出版社	和田垣究、生地加代（編）38-87頁 大学・短大の小学校教育および幼児教育に必要なピアノ曲と歌唱曲の代表的な作品を集めた練習曲集。	
2. 「第3部 資料編 2. 世界の諸民族の音楽の指導（2. アジア地域の音楽）1韓国」『改訂新版 中等科音楽教育法 中学校・高等学校教員養成課程用』	共	2004年03月10日	音楽之友社	164頁。 近年、日本の音楽教育では、世界各地の多様な音楽をとり上げた授業実践が重視されるようになり、とりわけ日本と関連の深いアジア諸民族の音楽研究が課題になっている。筆者は韓国の音楽を担当、宮廷音楽、民俗音楽、現況、リズムなどを概説。授業実践のヒントを提供。 ※『新編 中等科音楽教育法』（1995）、『新版 中等科音楽教育法』（2000）という改訂前の2編においても「第3部資料編・韓国」を担当執筆。	
3. 「韓国の音楽」『国際理解に役立つ 世界の民族音楽 1東アジアと日本の音楽』	共	2003年04月	ポプラ社	こどもクラブ（編）、井口淳子（著）、和田垣究（監修協力） 小学校高学年と中学生向けのシリーズで、本巻では東アジア（中国・韓国・日本など）の芸術音楽や民俗音楽、ポピュラー音楽などを歴史や地理、相互の関連にも着目して概説。全体は井口淳子氏の執筆、韓国の章を和田垣究が監修協力（一部執筆）、現状、伝統音楽、宗教音楽、リズム、サムルノリ、アリラン等を取り上げた。	
4. 『大塩天満宮 豪快獅子が舞う』	共	2001年03月31日	大塩天満宮獅子舞保存会	地主喬、屋台文化保存連絡会、谷本京子、和田垣究 播磨地方は祭の宝庫であり、屋台や獅子舞が各地に伝承されている。姫路の大塩天満宮では、郷土の文化を後世に伝えるため、本を出版することになり、秋祭りの全容が記録された。筆者は、その獅子舞の音楽（主に笛の囃子）の採譜を担当。	
5. 「第2部 第4章 東アジアの音	共	1998年03月3	晃洋書房	小島律子・澤田篤子（編）、小島律子、石村真紀、	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
6. 「第9章 音楽教育におけるフィールドワークとその実践」『音楽科教育論』現代教科	共	1988年04月01日	東信堂	<p>下出美智子、葉師寺美江、松永洋介、田中龍三、橋本龍雄、村上理恵子、大原啓司、和田垣究、澤田篤子、小林いつ子、松村直行、高橋曜子、根岸一美、伊東信宏 195-212頁</p> <p>近年、アジア各地の「今」が注目され、人々の認識を大きく変えつつある。音楽も例外ではなく、日本との相互交流も活発化した。そこで、日常生活文化を窓口にした音楽授業を試みるため、中・高生のアジアへの関心について調査した。その上で、現状や問題点、課題をふまえ、相互認識を深めやすいジャンルを中心に中華圏、韓国、東南アジア等の音楽をいかにとらえるか、実践結果も含めて考察した。</p> <p>松村直行（編）、松村直行、澤田篤子、根岸一美、馬淵卯三郎、田中龍三、田中盾臣、柳生力、野田千秋、和田垣究、小島律子</p> <p>音楽を社会と文化の中で捉えることは重要である。世界にはさまざまな音楽があり、その現場を見て背景を探ることは、音楽をより深く知ることにつながる。そして、音楽の授業を豊かで着実なものにするために、筆者の実践例をもとに、現職教員の行える範囲で授業に役立つフィールドワークの方法とヒント、地方別の着眼点、授業への活用などについてまとめた。</p>
2 学位論文				
1. 『韓国伝統音楽におけるリズムの研究—ブンムルノリ（農楽）の「3拍子」を中心に』	単	2000年09月	兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科博士課程教科教育実践学専攻・学位論文	<p>韓国伝統音楽の「3拍子」を、代表的な民俗芸能であるブンムルノリ（農楽）に見られる各種のリズム（チャンダン）と、サムル（四種の打楽器群）のアンサンブル、各種パフォーマンスの動作等との関連から分析。「人間</p> <p>のしぜんリズムである「2」（等分割）と「2」が「のって弾む」ことで変化した「3」（不等分割）をキーワードに、歴史や社会など、民族文化にも注目して考察。</p>
2. 『韓国伝統音楽におけるリズムの特質について—杖鼓（チャング）長短（チャンダン）を中心に』	単	1990年03月	兵庫教育大学大学院学校教育学研究科修士課程・学位論文	<p>韓国伝統音楽のリズム（チャンダン）は重要な要素であり、3拍子・3分割リズムなど、周辺諸民族の音楽とは異なる特徴を持つと言われてきた。その構造や特徴について、代表的なリズム楽器である杖鼓のチャンダンや奏法等を中心に考察した結果、その基本は偶数拍子であるという見解を得た。民族気質や杖鼓技法の発達が大きく寄与したことにより、西洋音楽とは異なる独特の発展を見せたためだと考えられる。</p>
3 学術論文				
1. 「韓国伝統音楽の『3拍子』をめぐって」『音楽教育学』第28-4号 査読付	単	1999年04月01日	日本音楽教育学会	<p>25-34頁</p> <p>韓国伝統音楽において、リズムは重要な要素で魅力でもあるが、いくつかの疑問点がある。その一つが「韓国の音楽＝3拍子」が広く認識されている点である。だが、実態は「1拍3分割×2ないしは4」のような形が目立つ。日本の音楽教育で韓国の音楽をとり上げる機会が増え、その際にも「3拍子」は重要になるため、いわゆる「3拍子」をどのようにとらえていけばよいのかを考察した。</p>
2. 「韓国の民俗芸能「農楽」に登場する楽器—その用途と特色」『芸術と教育』第3号	単	1999年03月31日	兵庫教育大学芸術系教育講座	<p>89-102頁</p> <p>農楽は、農耕儀礼や年中行事、娯楽などさまざまな機会に行われる音楽・踊り・演劇・雑技を包括した韓国（朝鮮半島）の代表的な民俗芸能である。中でも音楽の占める位置は大きく、韓国伝統音楽の重要な要素であるリズム体系（チャンダン）の特色も顕著である。ここでは、その主軸をなすサムル（四種の打楽器群）を中心に、農楽に登場する楽器の用途や特色に注目し、農楽および韓国民俗芸能の理解を深める。</p>
3. 「農楽とは何か—韓国民俗芸能に関する一考察」『芸術教育実践学』2〔1999〕	単	1999年03月31日	芸術教育実践学会	<p>52-59頁</p> <p>農楽とは、韓国の代表的な民俗芸能である。国外でも紹介され、日本の民俗芸能との関連も指摘されているが、その歴史や具体的内容については案外知られていない。農楽そのものの理解は、韓国の民俗音楽・芸能、民俗文化を理解する上でも不可欠である。韓国の音楽を日本とも関わりの深い、世界の音楽の一つとして、日本の音楽教育でとりあげる際にも有意義である。</p>
4. 『音楽における異文化理解の構図1)—アジア地域（韓国・中国）の学習構造（内容・方法を探る）』『韓国音楽之学習構造を探る』『音楽教育学』第23-2号 査読付	共	1993年12月20日	日本音楽教育学会	<p>加藤富美子、和田垣究、東暁子 27-30頁</p> <p>日本の音楽教育では、近年、日本と関わりの深いアジア各地の音楽に注目が集まっている。だが、その研究は不十分で、まず知ることから始めなければなら</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5. 「韓国音楽の教材化における一考察—世界の音楽による音楽教育」『音楽教育学』第22—2号 査読付	単	1993年03月31日	日本音楽教育学会	らないのが実情である。そこで、異文化理解（加藤）、韓国（和田垣）と中国（東）の音楽の、学習の意義、内容と方法、および課題、今後の方向等について、各々が論じた。
6. 「韓国内外で注目を集めているサムルノリ」「世界の音楽に親しもう(27)『わたしたちのサムルノリ—韓国の音楽に親しむ1』」『教育音楽』中学・高校版3月号	共	1993年03月01日	音楽之友社	51-60頁 これまで、世界の音楽のうち、韓国の音楽も度々とり上げ、授業実践を試みてきた。最近の社会状況の変化で韓国・朝鮮に興味・関心を抱く生徒もあるが、依然、他の国・民族の場合とは異なる問題や困難もある。日本の音楽教育において韓国の音楽をとり上げる意義、日本文化と関わりの深い、世界の音楽の一つとして通常の音楽授業で実践するにはどうすればよいのかななどを考察、新たな方向をさぐった。
7. 「長くつきあえる音楽をめざして—非西洋音楽の授業への導入・鑑賞中心教材から実技教材化までの一課程」『研究集録第29集』	単	1987年03月08日	大阪教育大学附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎	坪能由紀子、和田垣究 88-91頁 アジア各地の音楽を日本の音楽教育でとり上げることの重要性が高まっている。韓国の場合、民俗音楽の特徴的なリズムを集大成した打楽器アンサンブル「サムルノリ」が注目を集めている。その教材化のヒントとして、意義や内容、方法を、初心者向けに概説。坪能由紀子氏の連載の一部を筆者が担当した。
8. 「中学校音楽会小史—昭和54年度～58年度」『研究集録第26集』	単	1984年03月05日	大阪教育大学附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎	87-101頁 世界の多様な音楽を社会と文化の中で捉えることを重視し、多角的な授業を試み始めて約7年。これまでの実践を振り返るとともに、新たな試みも加え、国際化やアジアの時代といわれる今、次の段階を模索した。鑑賞領域中心だった西洋クラシック音楽以外のジャンルの系統的な指導法と実技教材化を図る過渡期でもある。
9. 「音楽の授業・最近の2年間—長くつきあえる音楽をめざして」『研究集録第25集』	単	1983年03月05日	大阪教育大学附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎	※これに関連するもの、および基礎になったものとして「アジアの音楽を授業に—長くつきあえる音楽をめざして」（『研究集録第27集』大阪教育大学附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎、1985、pp. 87-125.）、「統・アジアの音楽を授業に—長くつきあえる音楽をめざして」（『研究集録第28集』大阪教育大学附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎、1986、pp. 95-131.）、「長くつきあえる音楽をめざして—アジアの音楽をはじめとして」（『研究年報第17号』、1987、pp. 14-29.）がある。
10. 「音楽の授業・最近の2年間—長くつきあえる音楽をめざして」『研究集録第25集』	単	1983年03月05日	大阪教育大学附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎	191-208頁 校内音楽会は行事の中でも規模が大きく、他教科との関わりなど多くの問題を抱える。しかし、工夫次第でさまざまな可能性があり、意義深いものになる。各ジャンルの指導と生徒の取り組み方、学校・生徒の実情を考慮した選曲・編曲・授業方法の開発等、5年間の実践をまとめた。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 『韓国の音楽による授業実践をめぐる』	単	2004年12月20日 京都教育大学音楽科	京都教育大学音楽科実践的共同研究活動	韓国の打楽器アンサンブル「サムルノリ」の教材化をめぐる、京都教育大学音楽科が試みる小学校・中学校・高校・大学の音楽科教育における実践的共同研究活動の一環として、自身がこれまでに実践してきた韓国の音楽による音楽授業の流れ、内容、方法、問題点・課題を基に発表、助言や提言などを行った。
2. 『ここだけのサムルノリー—くらしきエソ カッチ ノルジャ!』(ワークショップ)	単	2002年09月07日 くらしき昨陽大学	日本音楽教育学会第7回音楽教育ゼミナール“2002”くらしきゼミナール「生涯学習時代の音楽教育」	ワークショップ担当。 サッカーW杯を機に韓国への関心が高まり、音楽に親しむ機会も増えた。特に、民俗音楽の特徴的なリズムを集大成した打楽器アンサンブル「サムルノリ」は、日本の音楽教育でも注目されている。ここでは、そのスタイルを応用し、参加者各位が持ち寄った“イイ音のする手軽なモノ”を用い、その場で可能なアンサンブル作りでエッセンスを実感。韓国民俗音楽にアプローチするきっかけを提供。
3. 農楽とは何か—韓国民俗芸能に関する一考察	単	1998年12月05日 サクラ	芸術教育実践学会 '98 研究発表会	上の学術論文3に基づいた発表。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
4. 課題研究A『音楽における異文化理解の構図(1)-アジア地域音楽の学習構造を探る』	共	クレパス (大阪) 1993年10月09日 岡山大学音楽科	日本音楽教育学会第24回大会	加藤富美子、和田垣究、東暁子上の学術論文4に基づいた発表。
5. 韓国音楽教材化における一考察－世界の音楽による音楽教育	単	1992年09月26日 大阪芸術大学	日本音楽教育学会第23回大会	韓国のさまざまな音楽を、日本文化と関わりの深い音楽、世界の音楽の一つとして捉え、通常の音楽の授業において一定期間の継続実践を目指した教材化について考察する。その第一段階として、韓国伝統音楽のリズム(チャンダン)の特質を応用した教材例を提示(杖鼓のチャンダン、サムルノリなど)。
6. 民族音楽による音楽教育－韓国音楽をはじめとしたひとつの試み	単	1991年11月03日 東京藝術大学音楽学部	日本音楽教育学会第22回大会	これまで、韓国のさまざまな音楽を、わが国の音楽教育でとりあげる場合の実情や問題点、今後の課題について継続的に研究し、発表あるいは授業実践を試みた。今回の発表は、1991年度、大学院(修士)修了後、一時的に音楽教育現場に復帰した中学校における、韓国のポピュラー音楽教材化による新しい実践内容等を加えた。
7. 民族音楽による音楽教育－韓国音楽を例にして	単	1991年05月25日 奈良教育大学音楽科	日本音楽教育学会平成3年度近畿地区第1回例会	「民族音楽による音楽教育」において、韓国音楽(あらゆるジャンル)を、わが国の音楽教育でとりあげる場合の実情や問題点、及び今後の展望・課題などを筆者自身の授業実践をもとに考察。近年、韓国への関心も高まったが、依然歴史的・現実的な問題や困難があるのも事実で、それに臨む教師・生徒の考え方や姿勢を見つめ直す必要がある。自身の研究や交流、反省をふまえ、新たな考えを持つに至った。
8. 韓国伝統音楽におけるリズムの特質について－杖鼓(チャング)長短(チャンダン)を中心に	単	1990年05月26日 京都教育大学音楽科	日本音楽教育学会 平成2年度近畿地区第1回例会	上の学位論文2に基づいた発表。
9. 長くつきあえる音楽をめぐって－アジアの音楽をはじめとして	単	1986年08月09日 なにわ会館	日本教育大学協会全国音楽科部会・全国国立大学付属学校連盟音楽科研究会昭和61年度研究会大阪大会	上の学術論文7に関連した発表。さらに関連発表として、『非西洋音楽の授業への導入－鑑賞中心教材から実技教材化への一過程』(1986年10月、第28回全国国立大学付属学校連盟高校研究大会)、『長くつきあえる音楽をめぐって』(1986年11月、大阪教育大学附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎第34回教育研究会)がある。
10. 非欧米音楽を授業にとり入れ始めて	単	1981年11月1日 大阪教育大学附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎	大阪教育大学附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎第29回教育研究会	研究授業『日本音楽の周辺をたずねて』(対象:高1)、研究発表『非欧米音楽教材による授業を始めて』、研究協議『中・高音楽科授業における教材の取り扱いについて－非欧米音楽をどのようにとり入れるか』の3部構成で、約2年間の実践を題材に発表・討論。
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
1. 朗読劇《ガザ～希望へのメッセージ》(岡真理・作)		2009年12月19日		中東ガザ地区とは?何が起きているのか?起きてきたのか?実情をドキュメンタリーと数名の人物の目を通して世界にうったえかけるもの。
2. 喜歌劇《メリー・ウィドウ》(レハール作曲)		2009年01月17日		レハールの代表作であると同時に、世界の二大喜歌劇(オペレッタ)に数えられる。愛し合う二人が世間に翻弄されながらも、その愛を成就させるまでの過程と人間模様を、ユーモアも交えて描く。本人はストーリー展開に重要な役割を担うニエグシュ役を演じた。 なお、同役は1991, 1994, 1996, 1998, 2000, 2002, 2004, 2006年にも演じている。
3. 『オペレッタ名曲のタベ』		2008年07月04日		喜歌劇楽友協会が過去30年近くにわたってとり上げてきたオペレッタ作品から、代表的な独唱や重唱を集めたコンサート。喜歌劇《ウィーンかたぎ》からなど、二重唱・七重唱に出演。
4. 喜歌劇《こうもり》(J・シュトラウス作曲)		2007年12月08日		ヨハン・シュトラウスⅡ世の代表的作品。喜歌劇(オペレッタ)でありながらもオペラとしての扱いを受け得るに足る規模と音楽、演劇性を備える。愛を機軸に人間の本質や世間を痛烈に風刺し、笑いを誘うという、ウィーンの伝統的コメディの特色を備えたフロッシュ役を演じた。なお、同役は、1987, 1991~1995, 1997, 1999, 2001, 2003, 2005, 2007年にも演じている。
5. 朗読劇《五十年目の戦場・神戸震災12周年版》(車木蓉子作)		2007年01月17日		2006年3月に上演・出演した朗読劇《六十年目の戦場・神戸 記憶と記録》(車木蓉子作)の原典版ともいべき作品。話者の一人として出演。
6. 朗読劇《六十年目の戦場・神戸		2006年03月1		阪神淡路大震災後の神戸および日本のあり方を、戦

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
記憶と記録》（車木蓉子作）		8日		前・戦時下・戦後社会にも注目し、神戸をほんとうの文化都市にしようと、さまざまな立場から語りかける話者の一人として出演。
7. 喜歌劇《ジプシー男爵》（J・シュトラウス作曲）		2003年05月10日		J・シュトラウスがグランドオペラを意識して作曲したもの。カルネロ役で出演。なお、同役は、1986、1993年にも演じている。
8. 喜歌劇《ウィーンかたぎ》（J・シュトラウス作曲）		2001年5月13日		J・シュトラウスⅡ作曲による喜歌劇の集大成と言うべき作品。カーグラ役で出演。同役は、1997年にも演じている。
9. ミュージカルコメディ《新・浪花恋しぐれ》		1993年11月28日		大阪発の喜劇とミュージカルの要素をとり入れた音楽劇。玉三郎役で出演。
10. 神戸市主催『神戸開港120年祭協賛コンサート「海の詩」』		1987年07月24日		神戸市記念行事の一環。《九十九里浜》（平井康三郎作曲）、《セビリアの理髪師》（ロッシーニ作曲）からのアリアを独唱。
11. 創作ミュージカル《ウーマン》（中川昌作曲）		1987年05月17日		喜歌劇楽友協会初の創作ミュージカル。シゲキ老人役で出演。
12. 大阪音楽振興協会主催『第2回フレッシュ・アーティストコンサート 新進演奏家による歌曲とアリアの夕べ』		1982年07月09日		新進声楽家のためのコンサート。各指導者の推薦を受けた者が出演。シューマン、ブラームス、R・シュトラウスの歌曲を独唱。
13. 関西二期会第17期研究生課程 修了オペラ試演会		1982年04月18日		関西二期会研究生課程修了試験を兼ねた公演。歌劇《電話》（ベン役）、歌劇《霊媒》（ゴビノー役）で出演（いずれもメノッティ作曲）。
14. ヴィエール・フィルハーモニック（現・関西フィルハーモニー管絃楽団）主催『オペラアリアとピアノ協奏曲の夕べ』		1981年09月16日		新進声楽家・ピアニストのためのコンサート。オペラ《フィガロの結婚》（モーツァルト作曲）からなどのアリアを独唱。
15. ジョイントリサイタル『イタリアンコンサート』		1981年05月31日		自身を含む4名の声楽家で自主開催。イタリアの作品、イタリア語による代表的な作品を時代別にとり上げる。オペラ《コジ・ファン・トゥッテ》（モーツァルト作曲）、オペラ《椿姫》（ヴェルディ作曲）からのアリアなどを独唱・二重唱。
16. 大阪音楽振興協会主催『第4回新人推薦演奏会 声楽の夕』		1980年05月21日		大学卒業後数年の声楽家のためのコンサート。各指導者の推薦を受けた者が出演。歌曲集《沙羅》（信時潔作曲）を独唱。
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 1997年～現在	東洋音楽学会
2. 1991年05月～現在	日本音楽教育学会
3. 1991年～現在	日本ポピュラー音楽学会